

19m11
教育方法論m
解答例

1近代教育思想と教授学の成立

教育方法論 m 第 10 回 テーマ「近代教育思想と教授学の成立」

(1) 「新しい時代の教育方法」から

全体の要点●リアリズムがもたらした教育方法に対する思想について

- 1)16 世紀・17 世紀のヨーロッパにおいて、実際の問題解決に有用な知識を重視するリアリズムが新しい技術・科学を背景として生まれた。これは教育の考え方にも大きな影響を及ぼした。
- 2)イギリスの哲学者ベーコンは、事象について多くの情報を集め、そこから仮説を導き出し、その仮説をまた検証するという帰納法を主張した。
- 3)ペスタロッチは、知識技能を言葉によって教えるのではなく、感覚器官を通じて経験させ習得させるという直観教授の方法をとった。

(2) 「演繹法・帰納法とは」から

全体の要点●演繹法・帰納法の違い

- 1)演繹法で物事を考えるときには、「前提を鵜呑みにしない、批判的な思考態度」が求められる。
- 2)演繹法は前提が正しいことが自明であるときに適用されるべき思考方法であり、前提が間違っていれば当てはめて導き出す結論も間違ってしまう。
- 3)帰納法は、自他が納得できる論理展開を作るのに長けている。
- 4)帰納法は、1 つでも例外が存在すると説得力が大きく失われてしまう。

(3) 「ペスタロッチの教育思想、教育目的、名言のまとめ」から

全体の要点●ペスタロッチの教育思想、教育目的

- 1)ペスタロッチは、教育の目的を「人間の諸能力の調和的進展」としていた。
- 2)ペスタロッチは、道徳的状態の人間こそが本来的なあり方であって、社会的状態の人間を道徳的状態になるよう教育することが「人間教育」だと考えていた。
- 3)心情的根本力、精神的根本力、身体的根本力の 3 つの根本力が「人間教育」に通じると、ペスタロッチは考えていた。

(4) 自分の意見

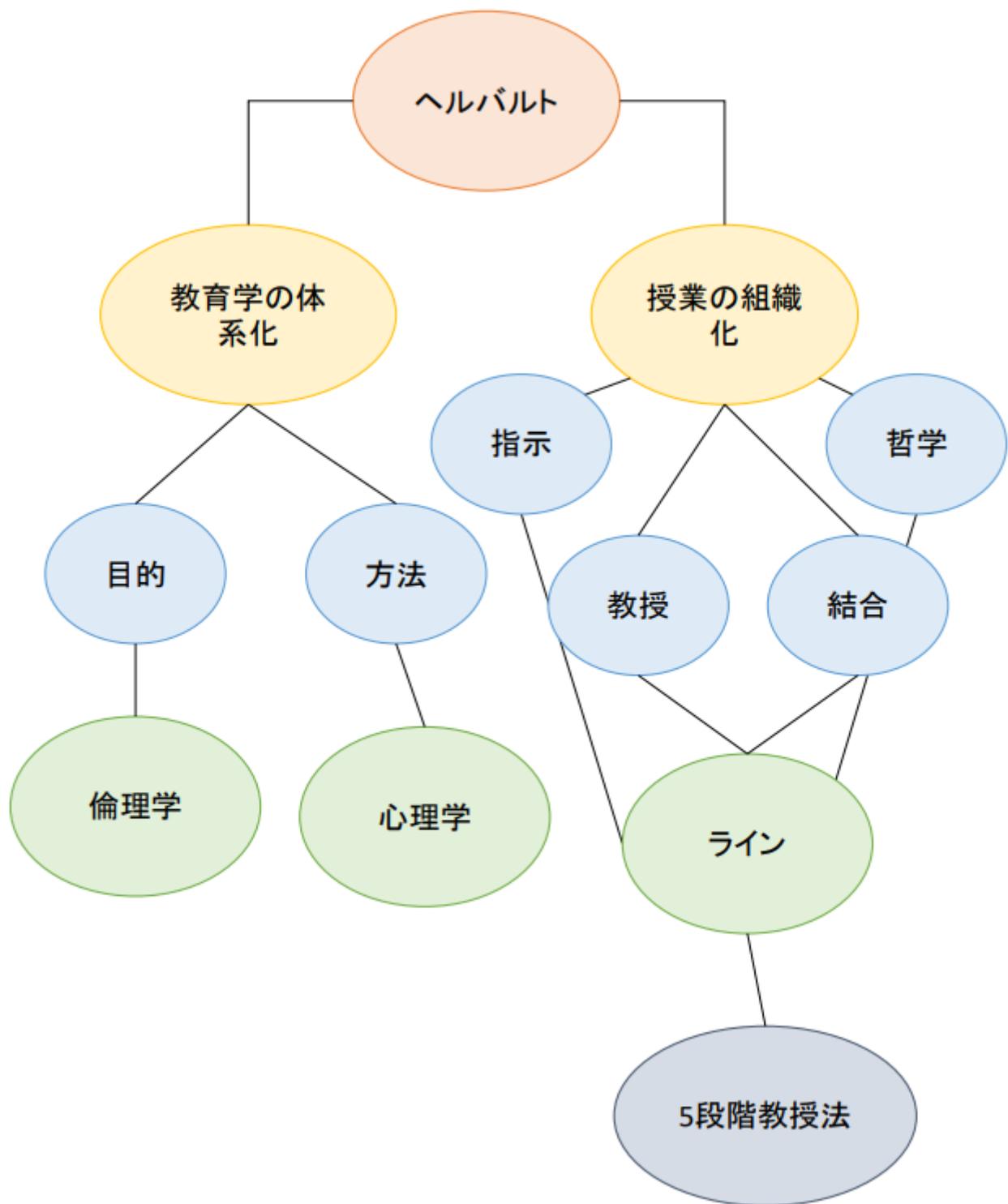
全体の要点●リアリズムを軸に考案された教育方法論について考えること、及び感じること

- 1)帰納法と演繹法について調べたことから、科学的事象を全て帰納法で説明するのは不可能であり、時には一部を取り出してその性質について帰納法で導かれるような一般的性質を当てはめずにその事象に向き合うことも必要であるように考える。
- 2)ペスタロッチの教育方法には賛同することができる。というのも、人が道徳的になるためには、当人が直観を通じて何も感じなければ道徳教育の効果はなく、机上の空論で終わってしまうことがあるためではないかと考えられる。
- 3)リアリズムを軸とした教育方法について、教育は現実には即している、また、現実に向き合うため何をすれば良いかの指針となるべきものであるから、このような教育方法は必ず行わなければならないと思う。

(5) 出典(文献名、url 等)

- (1) 「新しい時代の教育方法」, pp.12-22.
- (2) 「演繹法・帰納法とは」 https://www.missiondrivenbrand.jp/entry/thinking_deduction_Induction
- (3) 「ペスタロッチの教育思想、教育目的、名言のまとめ」 <https://tobbyblog.com/?p=958>





3カリキュラム研究の成立と展開

教育方法論 m 第 11 回 テーマ「カリキュラム研究の成立と展開」5 班
郎

(1) 「新しい時代の教育方法」から

全体の要点●

ソーンダイク→学習の法則：刺激と反応が合わさるには報酬が必要など。

科学的測定運動→教育は客観的にとらえることが困難だ→客観テスト(同じ評価基準に基づいて作られたテスト)を導入。

ボビット→社会的効率：カリキュラムを工場の労働・生産過程とみなした。

チャーターズ→生活の活動を分けてカリキュラムの要素にする：単元。

単元：教科単元：教材の系統性に基づく区切り、経験単元：生徒の経験興味関心

タイラー→教師は単なる知識の伝達ではなく問題解決能力の行動を教育目標とする。→タイラーの原理

ブルーム→教育目標を認知領域・情意領域・精神運動領域に分けた

「17 中学校学習指導要領解説」「18 高等学校学習指導要領解説」等から

全体の要点●偏差値の生みの親・桑田昭三氏へのインタビューから

ポイント 1) 日本にも 1930 年ごろ教育測定運動が芽生えたが、伝統的で権威的な日本の教育土壌には不向きで根付かなかった

2)

3)

4)

(2) その他のネット資料から長所・短所

全体の要点●

カリキュラム論における教育目標の系図はボビットによって当の概念が創出され、タイラーによって体系化され、ブルームによって発展された。

自分の意見

全体の要点●

ポイント 1) タイラー、ボビット、ブルームはカリキュラム論において教育目標に重きを置いている

2) ボビットの工場と教育の読み替えは分かりやすかった。

3)

4)

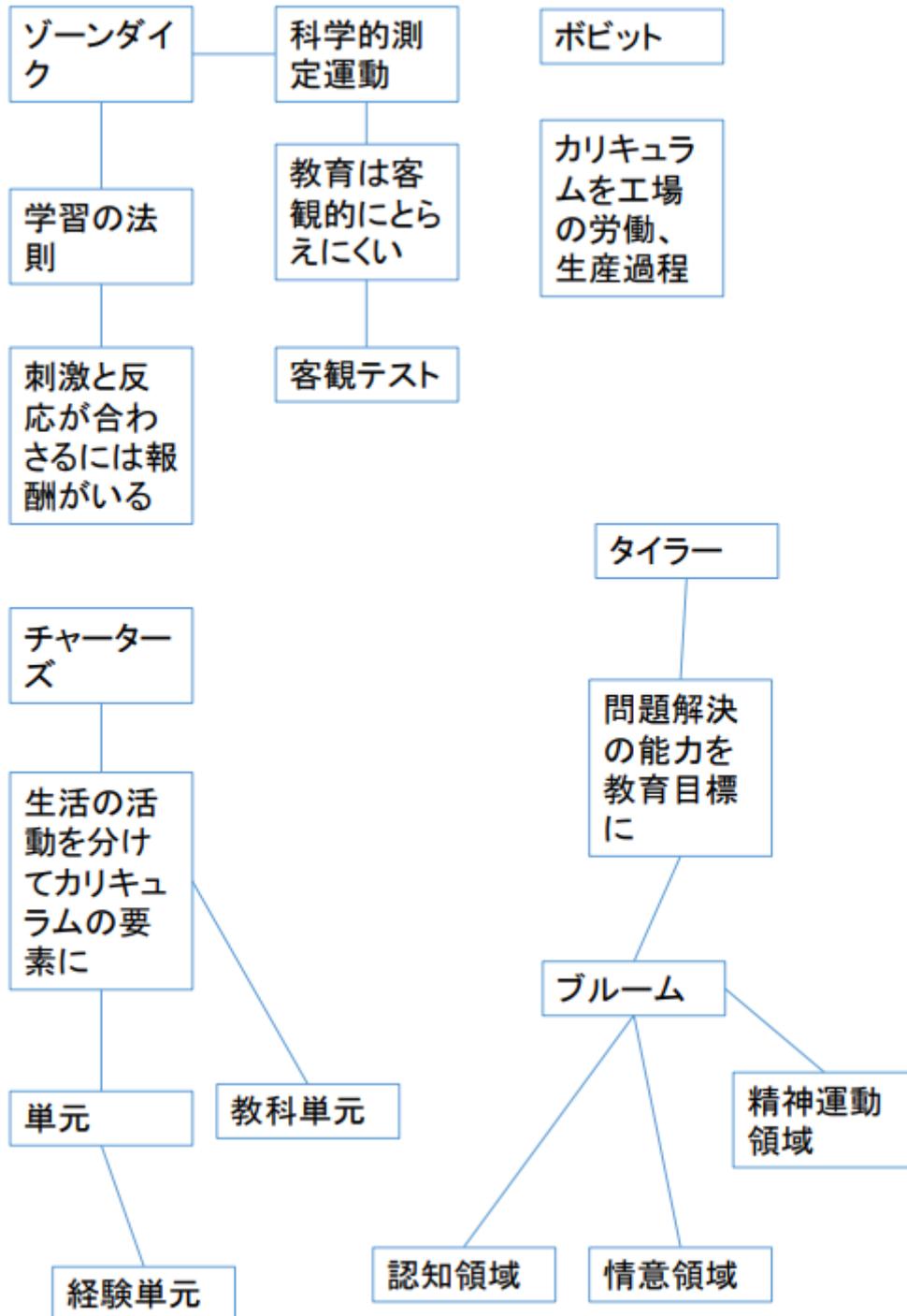
(3) 出典(文献名、url 等)

(1) 文部科学省(2017). 「中学校学習指導要領解説」. pp.1-6.

(2) 文部科学省(2018). 「高等学校学習指導要領解説」. pp.1-6.

http://hosted.jalt.org/test/kuwata_sainew-j.htm

(3) <https://www2.sed.tohoku.ac.jp/library/nenpo/contents/58-1/58-1-02.pdf>



4ICT活用例

ICT 活用例

班 3 番号

1. 単 元

数学(ICT 活用とアクティブラーニングの視点)、中学 3 年生

2. テーマ

中点連結定理

3. ICT 活用のねらい

- ・アクティブラーニングの 3 つの視点(主体的な学び、対話的な学び、深い学び)から ICT を活用する。
- ・新たな疑問や問いを発して考えを深めたり、対話や議論を進めること。
- ・GeoGebra を活用して学びを深める。

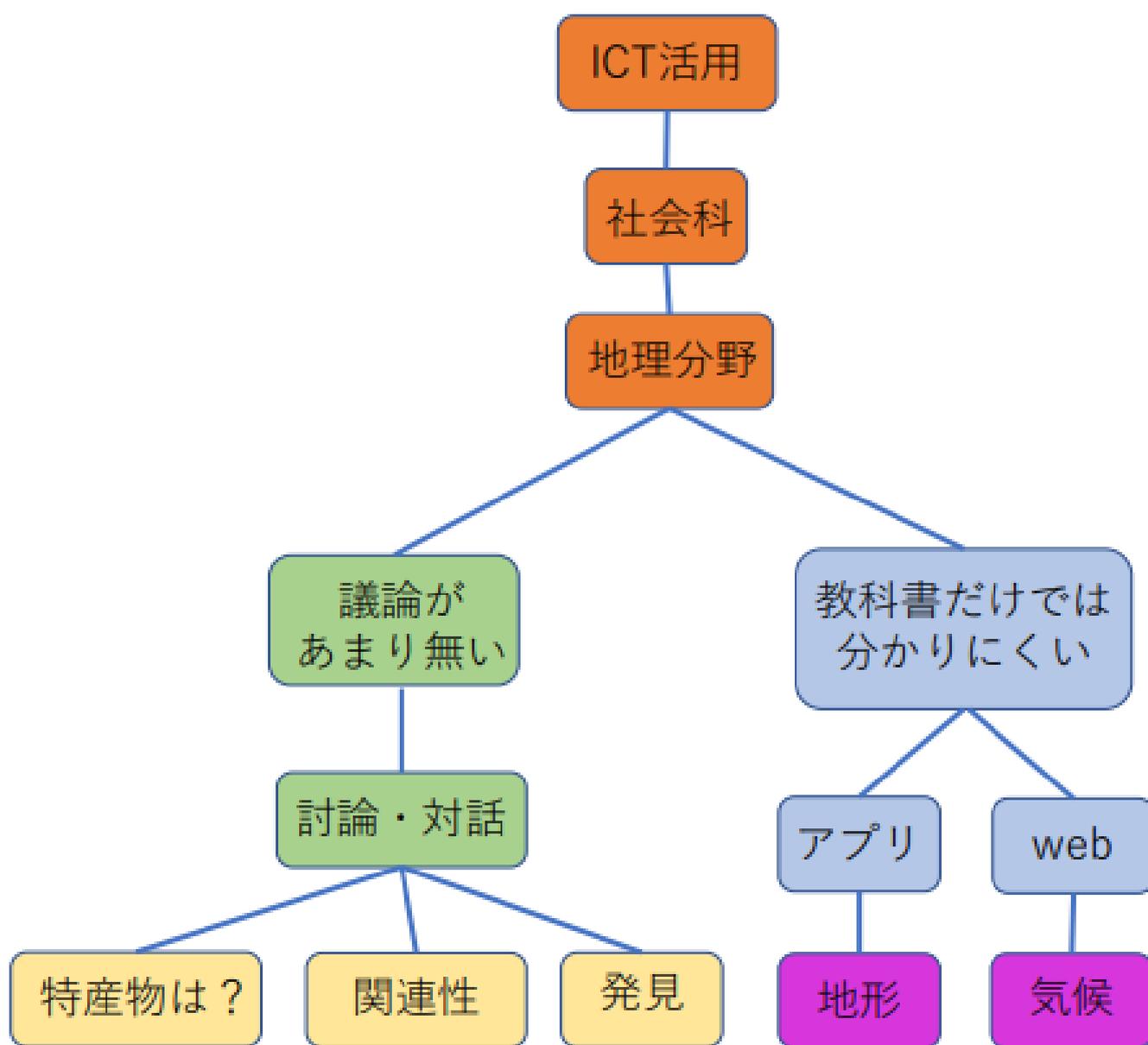
4. ICT 活用例

学習内容	指導過程・学習活動	指導上の留意点
「中点連結定理の活用」(第 3 学年)を題材とした GeoGebra の活用事例	ICT 活用の手順 ○導入 ・問題で与えられた四角形がどんな四角形になるか調べる。 ・四角形を変形させても成り立つかどうかを調べて、グループで話し合う。 ○展開 ・証明を考える。 ・考えた証明を共有する。 ・四角形を変形させると元の四角形はどのように変化するかを、変形させた四角形の条件を考える。 ○結末 ・元の四角形の辺や角は、変形後の四角形のどの部分に関係していると言えるかを考え、グループで話し合う。 イメージ図など どんな四角形ができるか。 そのときの四角形の条件は、 平行四辺形⇒どんな時でも 長方形 ⇒対角線が垂直のとき ひし形 ⇒対角線の長さが等しくなるとき 正方形 ⇒対角線の長さが等しくて垂直になるとき	○生徒が数学的活動に主体的に取り組むことを大切にするとともに、言語活動の充実を目指す。 ○教科書にはコンピュータを使って効果的な学習ができる。
備考	使用教科書 中学 3 年生の数学教科書 準備物 パソコン、筆記具、紙 授業形態と工夫 パソコンを使用しての授業。主にグループワークで授業を進める。	

5. 出典・参考等

- ・file:///C:/Users/Owner/Downloads/jcrc-n17P011-019.pdf

ICT活用例



5 確認問題10

確認問題 10

(1) 協同的探究学習の研究からまとめられた「わかる学力」の形成につながる学習の要点を4つ挙げよ。

- ・自分のアプロ-チで多様に解決できる導入問題の設定
- ・個別に問題を探究する時間の保障
- ・全体で仲間と協働場面を組織する。
- ・再度問題設定することで集団としての深まりが1人の理解の深まりになる。

(2) 次の「できる学力」と「わかる学力」に関する文章の空欄を埋めよ。

「(できる) 学力」の手続き的知識やスキルの(形成)メカニズムは(繰り返し)による(自動化)である。一方、「わかる学力」の(概念的)理解の(深化)メカニズムは、知識と知識の関連付けによる(知識構造)の精緻化や(再構造化)である。既有知識と(新たな知識)を結び付け、また既有知識同士に新たな結びつきを見出すことで、物事をとらえる(枠組み)を変えていくことが「わかる」ことの本質であると考えられる。

(3) 定型的な手続きを獲得することが難しい子どもに対する対応について、簡潔に説明せよ。

手続きの意味を理解させるために、具体的にモデルなどを用いて1人教指導やチームティーチングなどの「個別に応じた指導」を行うことが有効である。

(4) 「日本の子どもの学力の特質」「手続き構成・適用学習」「協同的探究学習」のうち1つについて簡潔に説明せよ。

「日本の子どもの学力の特質」
日本の子どもは解が一つに決まっている定型的な問題に対して手続き的知識やスキルを適用する力である「できる学力」は高いが、概念的な理解やそれに関する思考プロセスを表現する力は低い。

**）確認問題 02 を自己評価し、
気づいたこと、感じたことをのべよ

■ 5段階自己評価 ()

■

日本の子どもの特徴として「できる学力が高いが」、これが高くて高等教育で通用するのがという問題が発生するので、「わかる学力のプロセスを学習させるべきである」と感じた。

学力論

できる学力

わかる学力

手続き的知識

スキルの
獲得メカ
ニズム

概念的
理解の
深化
メカニズム

繰り返しによる
自動化

精緻化

再構築化